HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第100号を記念して
Author(s)	菅原, 秀人
Citation	北海道大學　經濟學研究, 32(1), 1-2
Issue Date	1982-06
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/31570
Type	bulletin (editorial)
File Information	32(1)_P1-2.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第100号を記念して

北海道大学「経済学研究」第100号記念号の刊行にあたり，北海道大学経済学部，同経済学会の各位とともに，心からよろこびをわかちあいたいと存じます。

ここに改めて創刊号を手にとってみますと，その奥付には「昭和26年12月10日」の日付が記されております。当時の経済事情を反映してか，紙質は決して良いとはいえませんが，掲載論文8篇はいずれも当時のスタッフの力作であったはずであります。活字，インク，版の組みかたなど，外観，体裁はその後変ってきておりますけれども，充実した内容と高い研究水準は創刊号以来，着実に継承されてきていることを確信いたしております。

戦後，北海道大学に文科系の学部が設置されまして，経済学部（当初は法文学部経済学科。その後，法経学部経済学科）もそのひとつでありますが，自然科学と人文・社会科学との調和のとれた発展を期して，研究スタッフはそれぞれの専門分野において日夜研鑽を続けてこられました。北海道大学「経済学研究」はそのような各スタッフの研究史の一面を形成するものともいえるわけでありまして，貴重な研究成果の蓄積はまことに意義ぶかいものがあります。

スタッフのなかで最年少の私が編さん委員を仰せつかった頃には，スタッフの数も今よりはずっと少なくて，原稿集めにもずいぶん苦労した記憶がありますが，昨年度などは論文数が多すぎて臨時増刊号の刊行を余儀なくされる有様で，予算との関係もあって編さん委員は往時とはまた違った御苦労をされるような状況になってきておりますことは，よろこばしいかぎりであります。

時の流れとは申せ，創刊号当時は大学院に籍を得て1年半そこそこの卵でありました私が，ここに第100号記念号刊行の御挨拶を申し上げることになりましたことは，感慨無量というほかはありません。

ねがわくは第100号が，次の第200号にむけてさらにスタッフの旺盛な研究活動が展開されていくそのスプリング・ボードとならんことを期待いたしまして，御挨拶といたします。

昭和57年6月1日

北海道大学経済学部長
菅　原　秀　人